文芸 さくらがわ

俳句

【大和俳句愛好会】

花屑を散らし小鳥の枝うつり　鈴木 ふみい

日を溜めて土手の春菜は伸びの良し　田中 はつい

逝く春とガラスに書きし指の文字　古橋 益子

岩清水小さき柄杓の添えてあり　鈴木 つぎ

姉妹と来し方かたり花の下　代田 とし

大津波寒さのつのる悲惨さよ　皆川 和子

激震に今日ある命沈丁花　鈴木 登美子

さりげなく言葉をかわす花の下　田代 てい子

花吹雪明日への糧とちり急ぐ　安達 幸子

歳時記を開けしままや目借り時　岩渕 のぶ子

短歌

【花の室 木崎集】

うらうらと記憶の庭によみがへりひととき
そよぐ山巓の風　塚田 沙玲

手の中にかくれるほどの黄の手帳ずっしり
つまった私の人生　大久保 まさ子

真向える嬢歌の山は万葉のロマンを秘めて
みどり萌えたつ　櫻井 ハル子

遠つ人の影かと振り向くわが肩にふれて散
りゆく桐のわくら葉　塩谷 明子

舞ひ上り舞ひ広がりて山風の意のままに花
が散りゆく　鈴木 とみ

コツコツと秒針まわる夜のふけにあすのひ
と日も輝きあれと　塚本 幸子

やわらかいご飯はもう炊かなくていいので
した　釜の水引く　西岡 和子

剣状の葉先に露の輝きぬ日陰の斜面に射干
群れ咲く　野村 幸男

またひとり岸辺をひつそり旅立てりこの世
で逢へぬひと待つ世界へ　深谷 快子

【岩瀬短歌会】

レーニン主義潰えて遥かな日々なれど信じ
ゐしものまだ少しある　小林 美瑳子

ふりだしに戻りて暮らす二人とは退化する
主婦と進化する主夫　浜野和 操

息災を念じて刻む七草の仄かな香り厨に広
ごる　石田 守子

亡母の羽織肩にかけてはまた包むふる里の
家に早きたそがれ　萩原 きしの

にこやかな巫女から受くる初春の破魔矢の
小鈴小さく鳴れり　五月女 静江

登校の列はみ出して少年は氷カシャカシャ
蹴飛ばしてゆく　渡辺 しな子

ノミ先の光移ろふ作業場の石工は無心に地
蔵を彫れり　瀧井 幸子

営業の夫に心地良き眠りをと短き日差しへ
蒲団干したり　大久保 富美江

さざなみが絣もように片よれる春日のどけ
し峡果の池　小林 むら

【岩瀬萩歌会】

海棠のうつむきて咲く優しさよ朝陽に輝り
て風はももいろ　安達 すみ子

辛夷咲く白きかがよひ思ひ出づ夫と尋ねし
峠の茶屋の　安達 悦子

大津波水は器に従ふも波の威力は万物を呑
む　角田 玉枝

さ庭辺に幾許こぞりて白妙の去年夫と見し
木ぼたんの花　坪井 ゆき子

若葉萌え陽は温もりてあはあはと小鳥は庭
に餌をついばむ　長谷川 玲子

蟠り皐月の空の吹き流しにのせて流そう
雲の流るる　石川 喜代

【一般投稿】

下校時の児童を保護する放送が書読む窓か
ら聞えたりけり　木下 善信

有料広告掲載募集中！
お問い合わせは、秘書広報課へ ☎58-5111・75-3111、内線1268
広報さくらがわ

有料広告掲載募集中！
お問い合わせは、秘書広報課へ ☎58-5111・75-3111、内線1268
広報さくらがわ